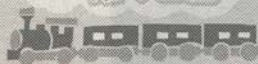


こんにちは 助産師です

第12回



生まれてくる命が皆元気一杯で、その後の人生を有意義に過ごしてほしい。親も医療者もそのことを願っています。しかし、最善を尽くしても、救えない命があることも事実です。流産・死産・新生児死亡…。赤ちゃんとの突然の別れは想像を絶する深い悲しみとなります。今回は、支援センターに寄せられた相談の中からあるお母さんが体験され、お話しして下さったことをきっかけにこのようなテーマを選びました。

赤ちゃんとの突然の別れ

「早く忘れて」は辛い
家族も周囲も悲しい

赤ちゃんという未来を失った空虚さ、喪失感。周囲の人々に理解してもらいにくい心情、そして孤独。なぜ私たちだけが赤ちゃんがこんな目に合わないといけなかったのか、という怒り。親として救ってやれなかったという後悔。時間が完全に止まってしまったかのようない日々。生に対して、死は、受け入れにくいものです。生と死は、生きとし生けるものの宿命であったとしても、最愛の人との別れほど人生悲しいことがあるでしょうか？

赤ちゃんを亡くした親に

と、「早く忘れなさい」という言葉ほど悲しいもの

はありません。赤ちゃんが存在したことそのものを否定されたように感じるからです。また、そんな状況にある親を励まそうとして、「早く忘れなさい」という言葉しか見つかからないという周囲の人の心もひどく傷ついています。周囲の人も赤ちゃんとお母さんを愛する人々だからです。

さらに心配なのはお父さんです。お父さんは、悲しみに暮れるお母さんを前に、どうやって支えたらよいか

戸感います。ご自身も悲しいのに、気持ちをぐっとこらえて一人居酒屋で泣いていらっしやるかもしれませ

ん。

（助産師 中園瑞枝）

◇子育て・女性健康支援センター

月曜～金曜 10時～16時
土曜日 13時～20時

☎0744-21-2422

電話相談のほか、乳房マッサージ、助産院・訪問助産師の紹介も行っている。

